

太鼓芸術



鼓宮舞

Tour 2018 in Deutschland

3月11日(日)

Frankfurt

Freie Waldorfschule

Frankfurt am Main

Neuer Saal

17時開演
(16時開場)

3月24日(土)

3月25日(日)

Heidelberg

Musik- und Singschule

Heidelberg

Johannes-Brahms-
Saal

17時開演
(16時開場)

オンラインチケット: kokubu2018.yapsody.com

当日 一般 25 €

*学生 20 €

前売 一般 20 €

*学生 15 €

ファミリー券 60 €

(前売のみ、大人2名、子供2名まで有効です)

*小学生から大学生(未就学児童でお席が必要な場合は有料)、入場時に学生証を提示してください。

共催: 日本文化普及センター、ハイデルベルグ熊本友の会、Shumei Deutschland e.V.

後援: 在フランクフルト日本国総領事館

協力: フランクフルト継承日本語教室『陽だまり』

お問い合わせ: Shumei Deutschland e.V. Tel.: 069 5700 0123 eMail: frankfurt@shumei.eu

太鼓芸術鼓宮舞は、和太鼓の持つ魅力、特に音魂を重視し、太鼓から発する音の力を聴く人の心に刻み、心躍る感動の演奏を目指しています。

2018年3月でドイツでの公演は3回目となり、これまで多くの方々に喜んでいただきました。特に2017年のハイデルベルクでのコンサートは、難民の方を招待した感慨深いコンサートとなり、地元でも大きく取りあげられました。また、被災地(東北・熊本)の支援のためのチャリティーコンサートも行い、多くの方々の協力を得ることができました。

2017年の3月にNPO法人としてスタートした鼓宮舞は、今後ドイツでのコンサートやワークショップ等を通じて異文化交流を深め、日本の伝統芸能、本物の和太鼓の魅力を末長く伝え、世界に感動を伝えていく所存です。

また、鼓宮舞は和太鼓を通して青少年の情操教育にも力を入れており、ドイツでの青少年教育にも微力ながらお役に立たせていただきたく、大都市でのコンサートや学校でのワークショップを展開し、和太鼓道場も各地に開設していけたらと思っております。

〔鼓宮舞紹介〕

太鼓芸術鼓宮舞は1998年に大阪府柏原市で結成されたグループで、主に神社・仏閣での奉納演奏を中心に、各種学校公演、自主コンサート、被災地復興支援コンサート、など幅広い演奏活動を行っている。また、国内のみに留まらず、2006年アメリカ公演、2016年・2017年ドイツ公演などの海外公演も行っている。



鼓宮舞(こくぶ)とは、太鼓の「鼓」、中国の音階の「宮」、舞踊の「舞」の文字を組み合わせて作られた名前である。「太鼓を叩いて皆を勇気づけ、喜ばせ、人々はその音によって舞い踊る」という想いが込められている。これは、創設メンバー4人で考えられた。

現代表である外山智亮の「和太鼓の素晴らしさを世界に広めたい」という想いから有志を募り、以来、小学生・中学生・高校生を中心に活動が始まり、2001年より自主コンサート開催、2002年には世界遺産である奈良県春日大社にて奉納演奏が始まる。これらの演奏が鼓宮舞の成長・発展のきっかけとなった。年々演奏の依頼は多くなり、2017年では代表含め20名のメンバーで演奏活動を行っている。

鼓宮舞の楽曲は、純粋な和太鼓のもつ音を響かせる曲が多くなっている。それらの曲は国内のみでなく、海外でも評価され、国内国外を問わず様々な太鼓グループでも演奏されている。

〔曲目・楽器〕

鼓宮舞の曲は主に宮太鼓、桶胴太鼓、締め太鼓、尺八、篠笛から構成されている。曲によって、銅鑼やチャッパ、鉄筒が使用されることもある。コンサートは約2時間で、およそ10曲演奏する。

大太鼓は、5尺の大締太鼓を軸に4尺5寸の国産榿(けやき)製大太鼓が使用されている。時に太鼓フェスティバルでは、鼓宮舞所有の80台の太鼓が使用され、舞台狭しと躍動感いっぱい表現されている。



楽曲はすべてメンバーが創作し、主に太鼓から発せられる音と美を表現している。太鼓のもつ力強さを表現し、創作された曲として、「興隆」「はばたき」「いぶき」2016年に作曲された富嶽三十六景をモチーフとした「不二」がある。これらはコンサート会場では、根強い人気曲となっており、鼓宮舞の持つ精神性をアピールしている曲である。「蜻蛉」という曲は、2011年の東日本大震災の復興支援のために創作された。昆虫のトンボは別名【勝ち虫】とも言われており、絶対に後ろに退かないことから、前へ進んでほしいという願いが込められている。コンサートのクライマックスで使用される曲の「ひとつ」は、観客と演者、そして会場全体をひとつに巻き込み感動に導いていく楽曲として支持されている。